



平成 15 年 8 月 27 日

各位

会社名 株式会社レイ
代表者の役職氏名 代表取締役社長 分部 日出男
(登録銘柄) コード番号 4317)
問合せ先 取締役 川崎 富士朗
連絡先 コーポレートプランニング室
(TEL 03-5410-4057)

平成 16 年 2 月期中間(連結・単独)業績予想との差異及び 通期(連結・単独)業績予想の修正について

平成 16 年 2 月期(平成 15 年 3 月 1 日～平成 16 年 2 月 29 日)の業績予想について、平成 15 年 4 月 15 日付当社「平成 15 年 2 月期 決算短信(連結)」及び同日付当社「平成 15 年 2 月期 個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 16 年 2 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 15 年 3 月 1 日～平成 15 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	3,441	18	2
今回修正(B)	3,572	163	94
増減額(B-A)	131	145	92
増減率	3.8%	805.6%	4,600%

(2) 修正理由

売上高につきましては、先行き不透明な景気環境を反映して大型の企画制作については苦戦したものの、演出機材や編集スタジオにつきましては、前期末より取組んだ営業力強化が実を結んだ結果、受注件数の増加となり、35 億 72 百万円と予想比 1 億 31 百万円の増収となる見込であります。

経常利益につきましては、上記の演出機材や編集スタジオの稼働率の改善が進み、1 億 63 百万円(当初予想比：1 億 45 百万円の増加)となる見込であります。

中間純利益につきましては、上記の理由により 94 百万円(当初予想比：92 百万円の増加)となる見込であります。

(3) 通期(平成 15 年 3 月 1 日～平成 16 年 2 月 29 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	7,081	176	73
今回修正(B)	7,213	321	165
増減額(B-A)	132	145	92
増減率	1.9%	82.4%	126.0%

(4) 修正理由

売上高につきましては、日本の一部企業に業績回復の兆候がみられるものの日本経済の先行不透明感の影響による企業の広告費支出は、厳しい状況が下半期も続くものと思われます。そのため、通期の予想におきましては、上半期の実績に当初予想いたしました下半期の業績予想を加算いたしまして、72 億 13 百万円と当初予想を 1 億 32 百万円上回る見通しを立てております。

経常利益につきましては、演出機材や編集スタジオの稼働の好転が上半期にみられたものの、下半期の不透明感を払拭するまでには至らず、3 億 21 百万円と当初予想を 1 億 45 百万円上回る見通しを立てております。

当期純利益につきましては、上記の理由により、1 億 65 百万円(当初予想比：92 百万円の増加)となる見込であります。

(5) ご参考：前期の実績(平成 14 年 3 月 1 日～平成 15 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(14/3～14/8)	3,404	17	48
通 期(14/3～15/2)	6,761	126	34

2. 平成 15 年 2 月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 15 年 3 月 1 日～平成 15 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	2,404	34	38
今回修正(B)	2,779	155	84
増減額(B-A)	375	189	122
増減率	15.6%	- %	- %

(2) 修正理由

売上高につきましては、演出機材や編集スタジオの受注増加により、27 億 79 百万

円と予想比 3 億 75 百万円の増収となる見込であります。

経常利益につきましては、演出機材や編集スタジオの稼働率の好転により、1 億 55 百万円(当初予想比：1 億 89 百万円の増加)となる見込であります。

中間純利益につきましては、上記の理由により 84 百万円(当初予想比：1 億 22 百万円の増加)となる見込であります。

(3) 通期(平成 15 年 3 月 1 日～平成 16 年 2 月 29 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	5,009	92	45
今回修正(B)	5,385	282	149
増減額(B-A)	376	190	104
増減率	7.5%	206.5%	231.1%

(4) 修正理由

売上高につきましては、日本の一部企業に業績回復の兆候がみられるものの日本経済の先行不透明感の影響による企業の広告費支出は、厳しい状況が下半期も続くものと思われまます。そのため、通期の予想におきましては、上半期の実績に当初予想いたしました下半期の業績予想を加算いたしまして、53 億 85 百万円と当初予想を 3 億 76 百万円上回る見通しを立てております。

経常利益につきましては、演出機材や編集スタジオの稼働の好転が上半期にみられたものの、下半期の不透明感を払拭するまでには至らず、2 億 82 百万円と当初予想を 1 億 90 百万円上回る見通しを立てております。

当期純利益につきましては、上記の理由により、1 億 49 百万円(当初予想比：1 億 4 百万円の増加)となる見込であります。

(5) ご参考：前期の実績(平成 14 年 3 月 1 日～平成 15 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(14/3～14/8)	2,781	6	16
通 期(14/3～15/2)	5,426	80	15

以上